

放課後児童クラブ実施場所の増設について

管野 恭子

〔質問〕(1) 第一、第二児童館のみで実施の放課後児童クラブ利用登録数は、今年度両館100名超と年々増加しており、健全運営の観点及び平成22年度より月平均登録数71名以上は補助金打ち切りとなることから、早くも緊急に児童館の分割の検討をすべきではないか。

(2) 福岡小学校児童17名が第一児童館を利用しており、今後3年間の同校入学見込み数は北保育園からだけで38名、同校内で同クラブ実施の必要性は十分にあるとみる。平成21年度中の実施をぜひ検討すべきではないか。

(3) 大平小学校区児童10名が第二児童館での同クラブを

利用、その内9名が利用のために第二小学校に入学とのこと。大平小学校内に同クラブがあればこの事態は避けられるはず。

同校内での実施を早急に検討すべきではないか。

○その他の質問

インフルエンザ予防ワクチン接種への助成について

〔答弁〕【市長】第一、第二児童館における放課後児童クラブは両児童館とも登録者数が増加しており、特に本年度、1年生の登録数が例年より多かった点は承知をしている。

したがって、現在、子育て支援策として各種施策を実施中であり、子供の出生数の増加を大いに期待しているところである。

今後ともそれらの人口動態の推移を見守るとともに、住民ニーズの把握に努め、国、県の補助要綱に沿った対応をしてまいりたい。



白石市第一児童館

中心市街地の活性化策について

山田 裕一

〔質問〕中心市街地の活性化対策として、空き店舗をどのように有効活用していくかが一つのポイントと考えるが、行政として何らかの策を考えているのか伺いたい。

空き店舗などを活用し、高齢者の憩いの場所として無料開放すれば、元気な高齢者のコミュニティの場所とな

る。

また、チャレンジショップ事業補助金制度のような制度を導入し、新たに商店街で事業を起こす方のバックアップができれば、中心市街地活性化対策の一助となると考えるがいかがか。

○その他の質問

1、自主財源の確保について

2、EM（有用微生物群）を使ったまちづくりや学校教育について

〔答弁〕【市長】空き店舗の活用は一つの方策であると考ええるが、中心市街地の活性化には地元の商店街の意向がとても大切ではないかと考えている。

空き店舗を利用した憩いの場の開設についても、地元の商店街などがみずから開設して、それを行政が支援すると

いう形がより有効な施策ではなからうかと考えている。

また、チャレンジショップの事業については、国などにおいても空き店舗支援事業、起業家支援事業等の助成制度があるので、市としても、空き店舗等の情報の発信と起業する際の相談事業などにおいて積極的に支援をしていきたい。



チャレンジショップで中心市街地を活性化してはどうか

本年度において、4月ないし5月より開催回数をふやして、より内容の充実を図った形でスタートしたところであるので、それらを検証しながら今後検討していきたい。